

滋賀県長浜市と西之表市とは、鉄砲伝来の火縄銃が縁で友好都市盟約を結んでいます。4月に繰り広げられた長浜曳山まつりに招かれて、伝統の「子ども歌舞伎」を観覧した後、曳山博物館の太田浩司館長に「長浜の曳山は仏壇が巨大化したものです」とのご教示を受けて、びっくりしました。

長浜曳山まつりは、毎年4基の当番山が子ども狂言（歌舞伎）を上演します。長浜八幡宮で観覧した孔雀山（神戸町組）の舞台は「一条大蔵譚」。源氏再興を祈願する常盤御前と、平家を欺くために阿呆の真似をして暮らす一条大蔵卿のからむ場面でした。

この4月、西之表市教育委員会に歴史文化課が新設されました。社会教育課の文化財係と企画課の歴史文化活用係をひとつにすることにあって、まちづくりに歴史と文化を生かしていくねらいであり、2024年12月に文化庁に認定された「西之表市文化財保存活用地域計画」の具現化をめざします。

ところで、本市では図書館が老朽化しているのが、旧榕城中学校跡地への移転を図り、子育てや高齢者支援を含む「多世代交流施設」の設置に取り組んでいます。また、耐震補強改修工事中の「月窓亭」は来春に公開を再開する予定です。鉄砲館では収蔵品の展示などを工夫するため、増改築の計画を急いでいます。

種子島には、地域で守り伝承しているたくさん
の文化行事があります。八坂神社境内をスタートする種子島鉄砲まつりは、太鼓山、女山車など京都の祇園祭を由来としています。同神社は、明治初年、西之表市西町の住民が協議して鹿児島市の八坂神社から御神霊を迎え、現在に至っています。「種子島家年中行事」（熊毛文学会発行）によれば江戸時代、正月に島主の館で、西町と東町はそれぞれ舞を披露して年始を祝ったそうです。種子島に伝わる踊りや芸能には歴史が息づいています。伝統を守る取り組みを学ぶため、今後長浜市との交流が続けていきます。私たちも、こどもたちの未来のために、ふるさとの祭りをしっかり盛り上げていきたいものです。



▲「一条大蔵譚」終盤の場面